

## 1. 集計結果

### ○回答数

- ・保護者による評価 12人（13人中）
- ・職員による評価 7人（7人中）

### ○実施期間

- ・2023年1月5日～14日

### ○評価の数値状況

- \*別紙を参照

## 2. 分析・討議

### ○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「子どもは活動を楽しみにしているか」の項目に、「とても楽しみにしている」という意見もある。子どもの内面の課題に応じた「楽しい活動」をつくり出せるように引き続き工夫したい。
- ・「会報などが定期的に作られて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりされているか」の項目に、「ペーパーレス化になると、職員の方の負担が減るのかなと思う」という意見もある。職員の負担軽減への配慮はありがたい。会報は、保護者や関係者とつながる、大事な役割を果たしているが、個人情報保護の観点から、デジタルデータによる発信は控えている。その他の方法で、事務負担の軽減を図りたい。

### ○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、早わかりしようとせず、(どうしてなのか)と、自らに問い続けているか」の項目に、「なぜ、この子がこういう行動に出るのか、常に考えるようにしている」という意見もある。「子どものことがわからないと感じたとき、傍観するのではなくて、働きかけて変化をつくりだし、理解しようとしているか」の項目には、「直接、『どのような感覚か』を聞いてみることもある」という意見もある。「子どものことがわからないと感じたとき、独りよがりの判断をせず、ほかの職員に意見を聞くなどしているか」という項目には、「他の職員にも意見を聞いて、いろいろな角度から、その子の気持ちや行動を理解するよう心がけている」という意見もある。子どもの問題にも見える行動の内側には、その子の本当の願いが、屈折した形で込められている、という視点を引き続き大切にしたい。
- ・「学校で頑張ってきたあとの活動という、生活の流れを意識して、子どもを理解しようとしているか」の項目に、「『心を休められる時間』というのをつくれるように意識している」という意見もある。子どもの内面を推し量りながら活動することを引き続き大切にしたい。
- ・「大人の目の育ちに応じてしか子どもは見えてこないという、自省的な意識をもって、

子どもを理解しようとしているか」の項目に、「常に新しい目で、子どもたちの内面や行動を見て、理解していくよう心がけている」という意見もある。子ども1人ひとりを理解することは、大人の反省をともなうような、子どもとの出会い直しであることを引き続き大切にしたい。

- ・「遊びや生活をつうじて、子どもの気持ちの育ち（人格の形成）をはかっていくことを意識して、子どもに働きかけているか」の項目に、「特に『子ども同士の関係性』のきっかけづくりを意識している」という意見もある。対人関係の豊かさなど、子どもの人格形成を図ることを引き続き大切にしていきたい。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」の項目は、「はい」が「3」、「わからない」が「1」、「いいえ」が「3」ある。「ZOOMでの講演会などに参加した」という意見もある。コロナ禍ではあるが、オンラインによる研修会も増えてきたので、外部の研修会への参加を引き続き働きかけていきたい。

### 3. 改善目標

#### ○保護者による評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子どもが楽しめるということは、単に楽しければいいということではないだろう。子どもの内面の課題に即した、その子の興味・関心から出発した活動であるということを、これからも大切にしたい。

#### ○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・オンラインを活用した、外部の研修会に参加する意識も広がっている。内部の研修会を充実させつつ、外部の研修会への参加も引き続き呼びかけていきたい。

### 4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2023年1月31日より）

○ホームページへの掲載（2023年1月31日より）